

文政七甲申夏異国伝馬船
大津浜へ上陸並諸器図等

銀錢
錢



銅錢

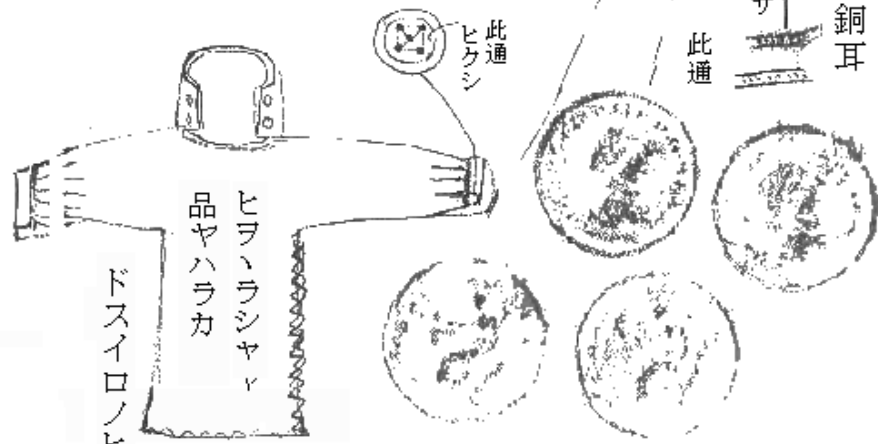


銅耳

厚サ

此通

此通
ヒタシ



銀錢巻 錢式

くし払り式

ハアカ巻

どうぎ巻

火打いしかま



頭巾式

ふろしき式枚

火打いしかま

ふろしき巻

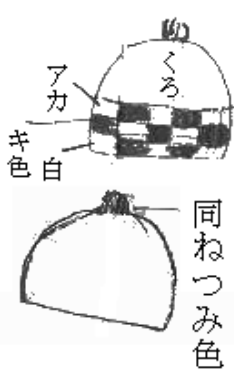
きせる小安貝式大小

がっさい巻

ツギニマツサ

毛

毛織物



同ねつみ色

アカ
キ色

白

文政六未八月廿八日夕浜田郡方
二て写

イギリス船

水主三十七人

文政五年
一 此圖ハ去年中相州

浦賀へ着船の図

川尻村庄屋所持

仕居候品此節異

国船へ行逢候水

木村政平其外

河原子村漁師

共へも為見届候

処無相違と申

述候由

一 船中段白黒の処ハ

シツクイヌリ

一 艫二人形の形ハシツ

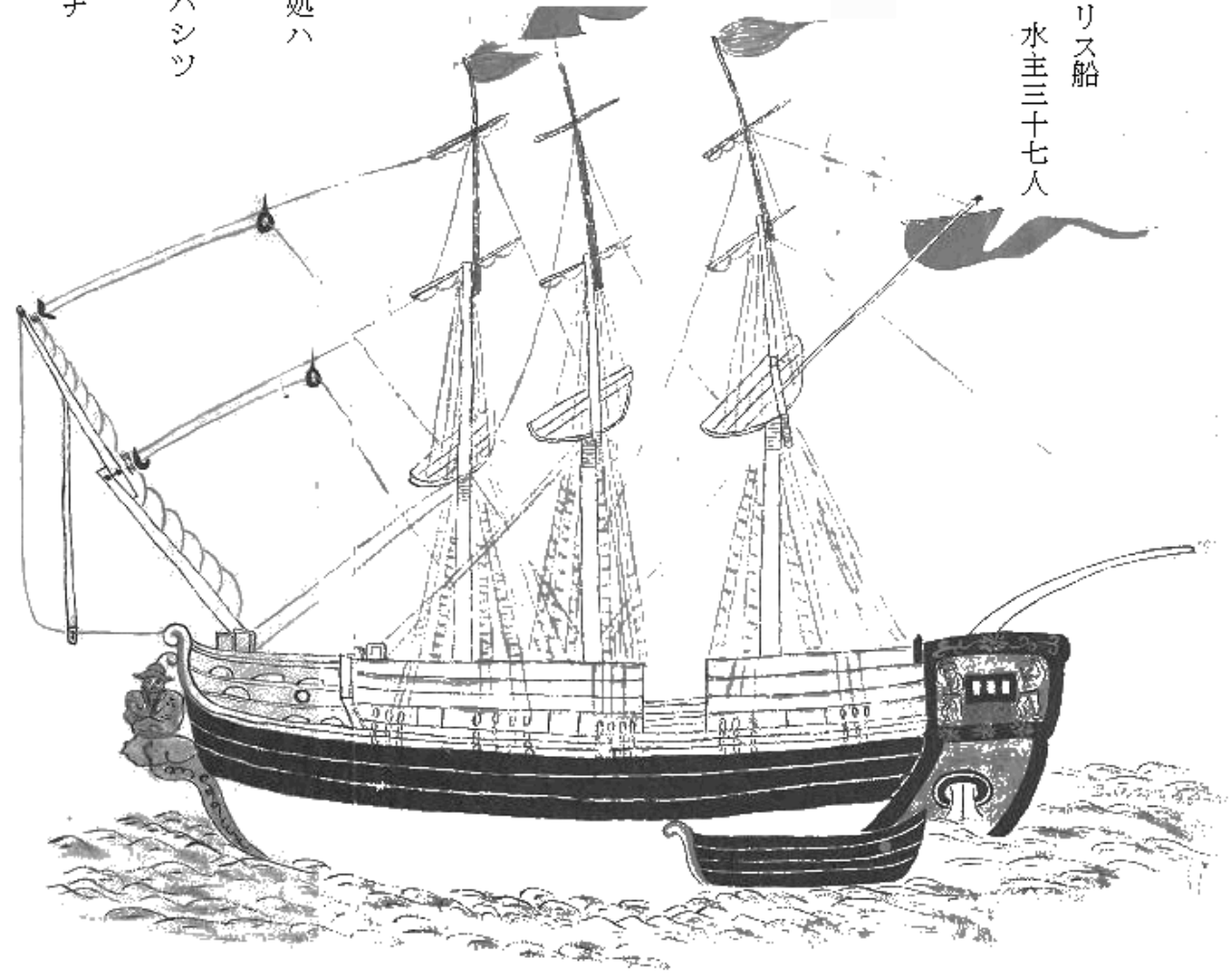
クイヌリ

一 艫ノ人形の形チ

木彫此度の船

ハ天女の形彫候

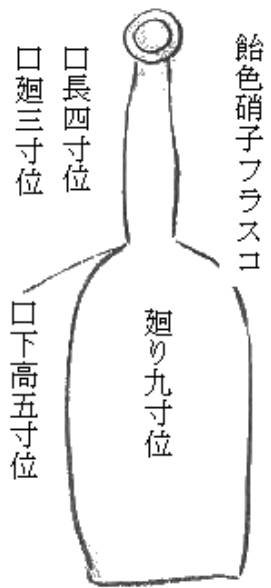
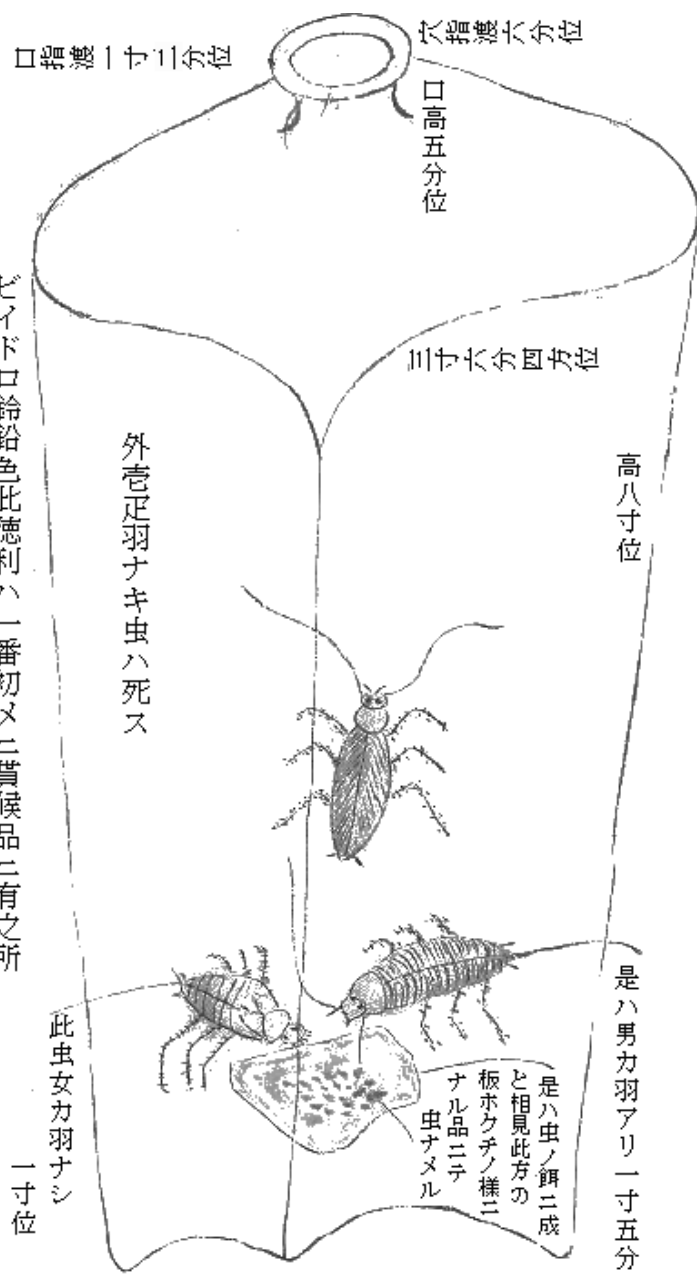
分も在之由



河原子村之漁船異国人ニ賞候品

鯨切レ刃物大サ如図ニテ鉄也

水木村十三郎船の者此德利え虫四ツ入賞参り所巻匹死ス



是ハ会瀬村安三郎船市五郎と申もの賞参り候分

鉛色硝子フラスコ

一 鉄輪卷ツ是ハ会瀬村七郎兵衛船源三郎賞参候分

但シ拾角ニて指渡一寸五分位輪一寸五分位厚一分位ニて三ヶ所ニ継目アリ
勾倍付是ハ鯨油捕ノ輪ニ候由ニ候由古ク相成切レ出来用ニ不相成候由
ニ付捨シヲ賞候由
此所此方柿杯の様成木ニ相見候白毛ツヤアリ



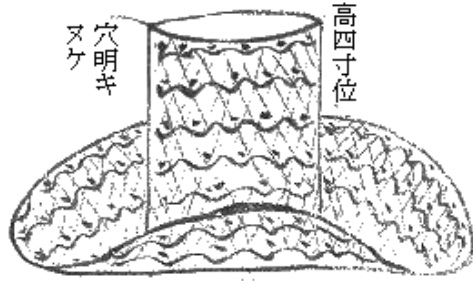
何ノ毛カ不分毛長一寸五分位
是ハ河原村漁船の者賞候品

此所二分程ネチニテクリ込
是ハ異国人面ヲ洗候品の由

The Secretary of London
 Captain Jernoy -
 King George the Fourth
 King of England
 The Doctors Study etc
 I have ever in Memory of Jernoy,
 and Eldest Doctor.
 July 1833

此書付ハ此方ののり入紙杯の性入ニて五六文位の高状紙の厚
にて四方金へり大サ如图扱又朱を以圖し候如ク透しのモ
ヨウアリ至て白キ紙にて性合宜相見候

笠田村伝兵衛



笠田村伝兵衛

笠二も可有之哉ス、ケアカ付臭氣アリ

色ハ此方ノ柳箇杯ノ色より少シ黒シカ、リ何ノ
 カワニ可有之哉此方ノ椋皮位ノ薄キ二分
 位ノ幅ノ皮ヲ以五分位ノ幅ニ細代ヨリニ
 アミ候ヲ麻糸ノヨウナル糸ニテ廻シ縫ヒヌ
 イ上ケナマ松カサノ如シ
 是ハ田尻村伝兵衛船水主のもの貰候分
 外ニ焼餅一ツ岩かけの様成品ニツ

THE NEWS.



276048

APR 28 1882

4501586

是ハ赤判ナリ



是ヨリ以下文字上ノ七字ノ形ノ文字ニテ此方ノヨヨミ
 ヨリモ細字ニ付略ス但両面ニスリ板行物紙ノ大サ
 如図此方ノ唐紙等ノ性合ニテ厚キ方

長壹尺一寸三分位
 横七寸

河原邑漁船ノモノ貰候品



緋羅背板縫クルミ
ニツの内一ツ
是ハ今瀬村源三郎
方方祝の拾遺し
賞受候分

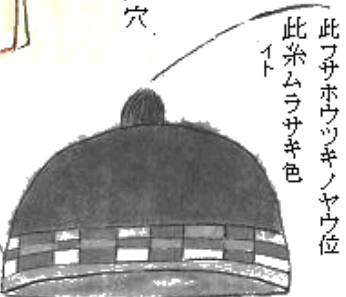
此穴ハボタンヲハメル穴



頭巾



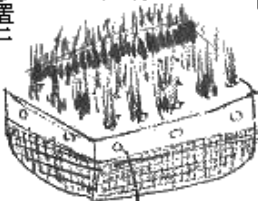
此筋一ツ置ニ
紅とモミキ色
上下ノスジハ
赤白



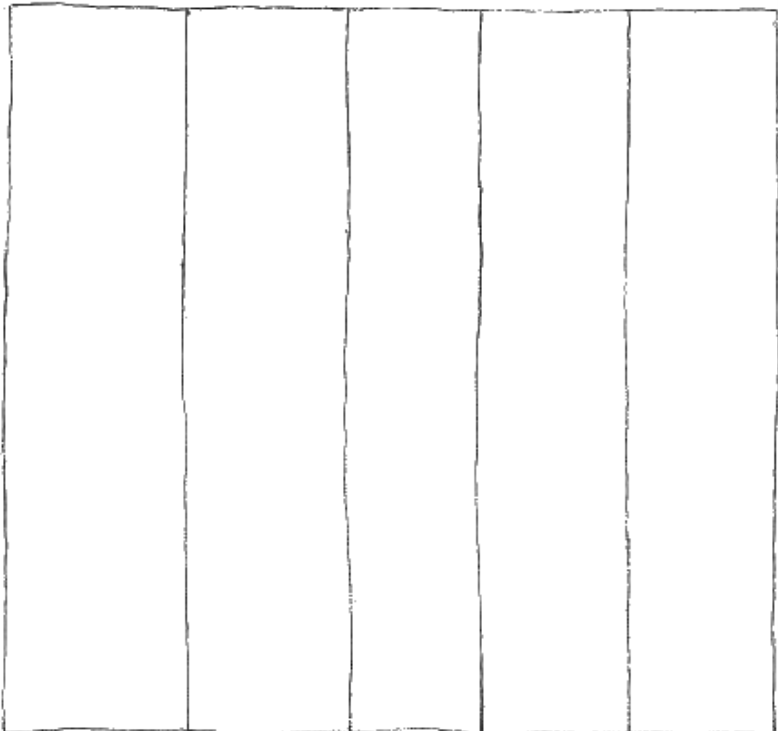
此フチホウツキノヤウ位
此糸ムラサキ色
イト



髪撫候由
長六寸
位巾
一寸
五六分
毛長
六七分
猪ノ稻毛位ノ
大サニてヒカリ
アリコハキ毛
ヲ五六本位
揃方四
方位ニウマ
候板ハ板
扨ノ様ニ見
候




此フチ銅
ニテシンチ
ウ鉄打
下ハヒロウ
トエワタ入條
様見候長
二寸五六分
巾一寸位




水木村四品之内
両面摺
河原子村より
指出候のと
文字同様
寸尺延紙
四枚位

一 錢樣ノ物一ツ


裏口迄指出候通頭計形アリ
真論



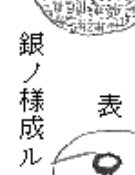
是ハハギセルタハコ入
王ノ姿アリヲ遣首受候由
河原村水主銀三郎



裏



表



銀ノ様成ルモノ
是ハツマミ銅の様子

是ハ錫杯の様相見申候合候
モノト見申候

川尻村介衛門首候分

川尻村藤七首候分

裏



表



表




裏




是ハメツキノ様ニ相見申候

会瀬村 新左衛門舟七平太

表



裏



此図一廻大き過候 一枚ハ黄かた付 写悪し

銅錢大サ如图厚一分位是迄品と中ノ絵ハ同シ
ニて品ノ縁ノ文字違候

同村長三郎平五郎首候分

さらさ風呂敷二枚

但ハミニ尺ニ二尺五寸位
地紫へモヨウ染ぬれ

河原村源四郎手舟首候分

一米百粒程 赤玉シイナ打交ニテ此方ノ下白米位ニテ下下品

同人首候分

一唐キミ十二粒程 此方ノ品ニ不替

同村半三郎舟首候分 同村源十郎舟同断 同村源次郎舟同断

一風呂敷一枚 二尺四方 一幅物 一同一枚但二尺一尺七寸 一板行絵一枚 但唐紙九寸ニ七寸位ノ紙ノ内へ五寸ニ四寸位ノ内ニ異人蛇遣イヲ

此方ノ上袖位白地へ一寸四方 地性上同断紅形 付也形ヲ略ス

位ニケ様ノ 但ヨリモノ也

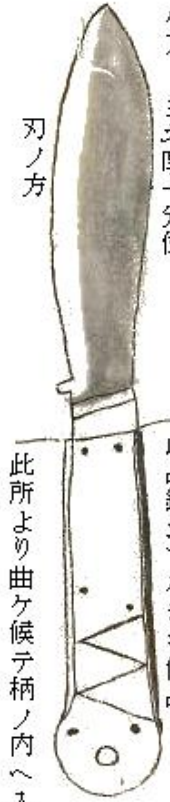
モヨウ有

左右ニ五人ニテ見物致候
テイ

同村惣左衛門舟首候分

一両面摺書物一枚但一尺五寸二九寸位委ク細字ニテ一ヶ所へ大船ヲ
異国人四五人ニテ遠眼鏡を以見候躰ノ絵有リ

小刀
水木村政平船のモノ昔候分
ミネ厚一分位



此品鉄にてハシキ候品
此所より曲ケ候テ柄ノ内へ入候様ニ
拵候品也 柄長三寸五分
位ニテ角ノ様成
子安貝
式つ大サ如図

川尻村藤七昔候分



是ハ火打カマ



火打鎌一本但長三寸位
柄付三角一方二分位指渡
一寸五分位



高四分位
横一寸位

河原村源兵衛船昔候分
錢ニても可有之哉

唐銅ノ様相見候大サ如圖
厚一分位



同村勘次郎船昔候



表裏共々上二同
大サ如圖厚一分位

鉄延力ネ桶タカノ様相見候右十二品大サ如図



鉄延力ネ桶タカノ様相見候



大サ如図

フタノ内筋より人形ノ所
フクマシ付



身青ヌリ内銀ナカシ

蓋白地へ朱色絵筋赤

大サ如図

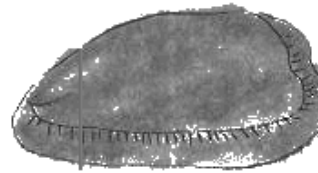
銅惣采人物朱色文字筋黄銀ナカシ

同村源十 船首候分
頭巾
長六寸位
羅背板様の
品にて用色



製一尺川田ヤ

会瀬村伝左衛門舟喜三郎
一風呂敷一枚 二尺 四方
堅麻横木綿織の
様見申候赤ト黄ニ
テ此方ノ弁慶シ
マノ様



図如サ大貝安子

同村源次郎舟モラヒ申候

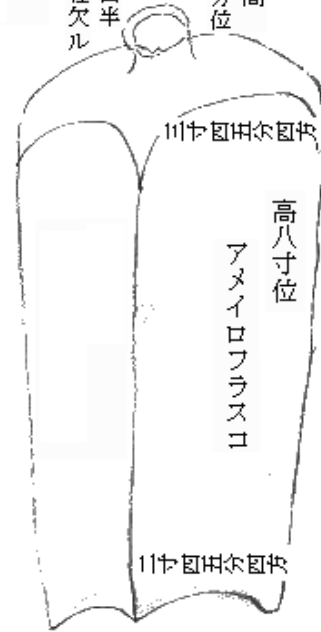
会瀬村安三郎舟市五郎首候
長五寸二巾一寸位 柄長三寸ヨ丸
包丁一枚 木ニテ挽モノノ
様ニ見候



未七月十三日久慈村兵十舟の兵吉
等五人ニテ首候分 此小刀二挺



口高
五分位
但口半
分程欠ル



河原子村源衛門船首候分

高八寸位

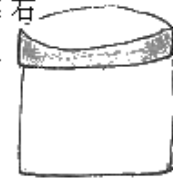
アメイロフラスコ

同村源次郎舟首分

此方ノ石
ニ似寄候へ共
用色



火打石
性合ハ



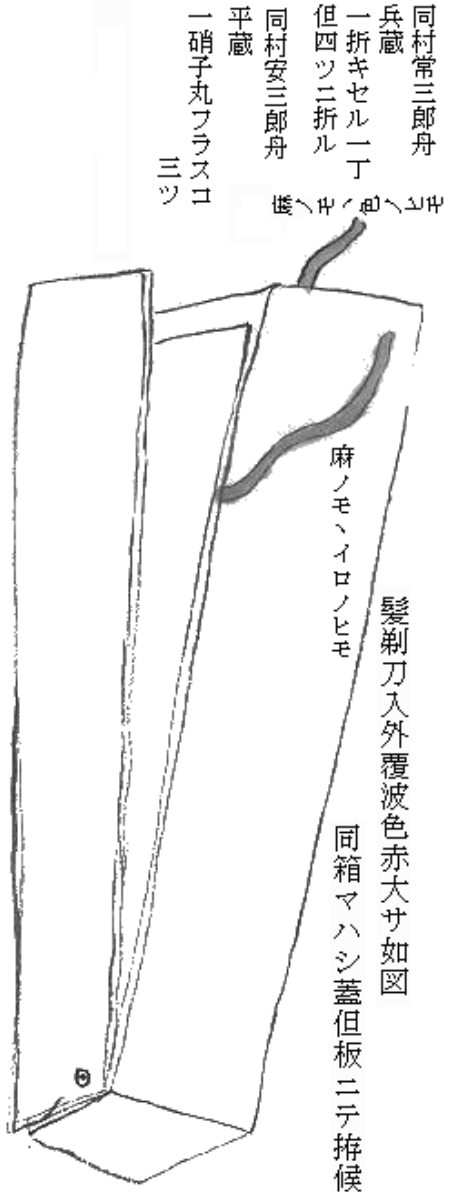
会瀬村伝左衛門舟七平太
首候
高式寸余
指渡同断
カブセフタ付
錫乎砂理
ノ様に相見候



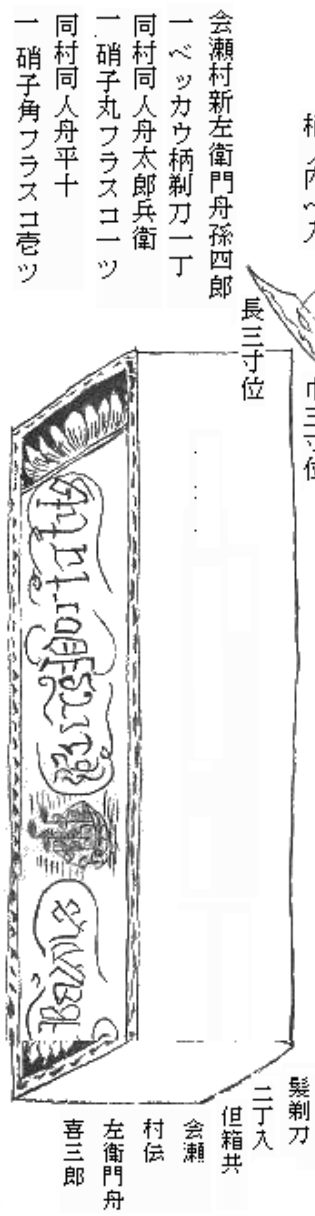
物長五寸位
 コップか一ツ外銀ノ色内非銅ノ色ニ見ヘ候
 会瀬村安三郎舟文十



外物朱塗
 朱色絵面
 ノ所丸クフ
 クラミアリ
 ハネフタ
 内銀ナカシ
 大サ如図
 地附カ
 会瀬村伝左衛門舟喜三郎



同村常三郎舟
 兵藏
 一折キセル一丁
 但四ツニ折ル
 同村安三郎舟
 平藏
 一硝子丸フラスコ
 三ツ
 麻ノモノイロノヒモ
 髮剃刀入外覆波色赤大サ如図
 同箱マハシ蓋但板ニテ拵候品



会瀬村新左衛門舟孫四郎
 一ベツカウ柄剃刀一丁
 同村同人舟太郎兵衛
 一硝子丸フラスコ一ツ
 同村同人舟平十
 一硝子角フラスコ壹ツ
 長三寸位
 巾三寸位
 此所シンチウ
 柄長三寸位ベツコウ様ノ品ニテ薄黒
 但裏も同ジ
 ヨウノモヨウナリ
 髮剃刀
 二丁入
 但箱共
 会瀬
 村伝
 左衛門舟
 喜三郎



小刀 一爪カケ
 会瀬村伝左衛門舟喜三郎
 長三寸位
 巾一寸位
 大小二枚共 爪カケ
 柄ノ内ヘ入
 巾三寸位
 此所シンチウ
 柄長三寸位ベツコウ様ノ品ニテ薄黒
 但裏も同ジ
 ヨウノモヨウナリ
 髮剃刀
 二丁入
 但箱共
 会瀬
 村伝
 左衛門舟
 喜三郎
 中ノ絵様ハヤキニ相見候
 髮剃刀二丁前ノ箱ヘ二丁共ニ入
 クチラ



是ハボタン

中一段ヒクシ

マナ五ツ糸かけ

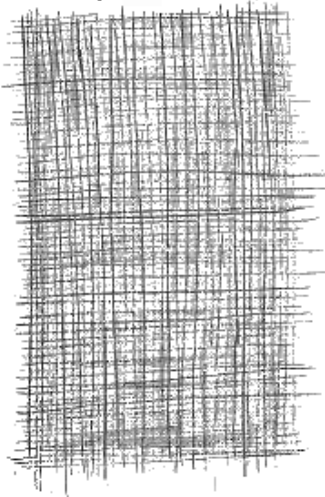
前

縫クルミ
着物一ツ
トヒイロラ
セイタ杯ノ
類



折キセル

大サ如図焼物色ネツミ



此方ノ蚊屋ノ切レより少シユマカヤハラカ也
帆控ノ切色カハイロ大サ如図



水木村四品ノ内
鉄砲玉



櫛大サ如図

象ゲカ

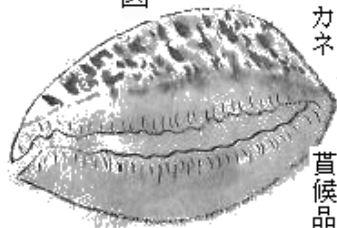
此所シンテユウ



柄ベツカウ

鉄ノハチキカネ

子安貝
大サ如図



水木村四品の
内キセル
やき物と見候

川尻村の漁
船の者沖合にて
昔候品



貝安子



三ツニ折レ
一ツナシ

鬚剃刀大サ如図

会瀬村八品の内六品



柄長三尋ほど

鉄

鯨切道具

大津村

水木村四品の内

鉄砲玉

焼餅

欠品

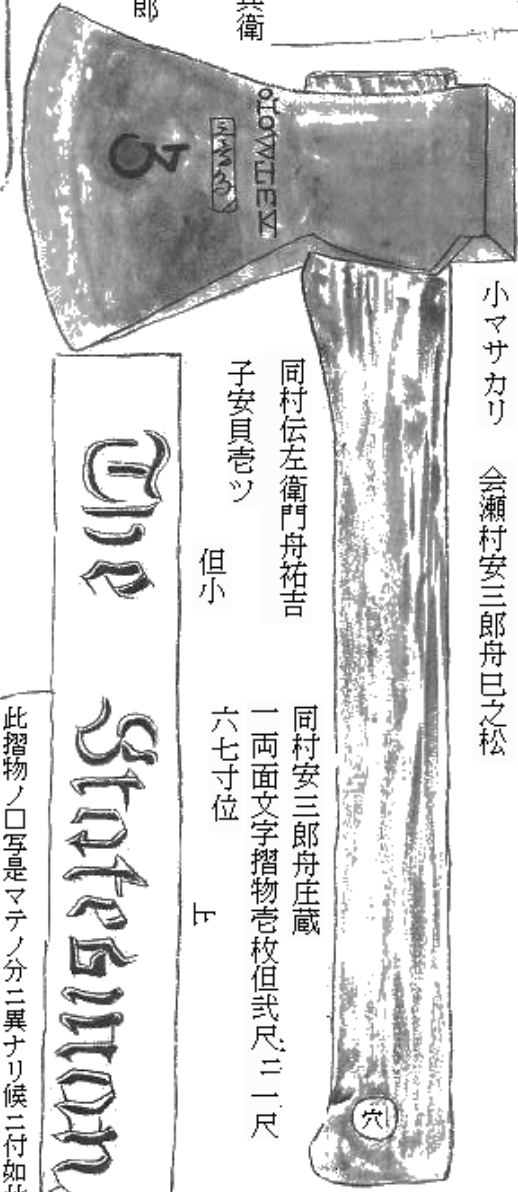
一ツ

男尻

村伝兵衛

船

甚三郎



小マサカリ 会瀬村安三郎舟巳之松

同村伝左衛門舟祐吉

子安貝壹ツ

但小

同村安三郎舟庄蔵

一両面文字摺物壹枚但式尺二一尺六七寸位

此摺物ノ口写是マテノ分ニ異ナリ候ニ付如此シキ写認置者也
但下へ記候細字の分ハ追々出候摺物二同シ

折笠村藤兵衛舟

川尻村惣八

子安貝壹ツ

同村常八直乗

子安貝壹ツ

内巻ツ破レル

子安貝一ツ

水木村三郎衛門舟 藤次郎

此貝ハ白地へ黄ノ模様有



川尻村

吉郎衛門舟

大兵衛首縁

此所 真鑰ボタン 様ノ品

折笠村 彦兵衛舟 川尻村惣八ニツ共

折笠村 藤兵衛舟

右同断

会瀬村伝左衛門舟勤左衛門

一頭巾一ツ

茶色右フセ

板様ノ品長サ

六寸位廻リ

一尺二寸位

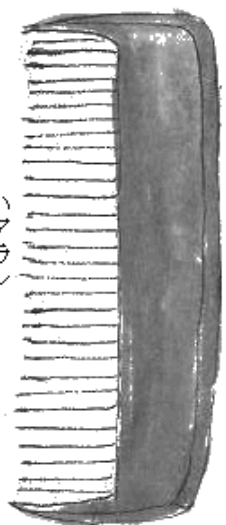
会瀬村常三郎舟文蔵

一子安貝壹ツ



櫛四ツ共大サ如図

コマヤカ



ハアラシ



目湯入ト相見候湯気アリ

櫛象ゲ牙の類四ツ共



コマヤカ



ヒカキ

大サ如図



印面中朱玉



印ツマミ唐銅



カサ

書物



銅ハン

右の品々ハ石神並ニ浜田御郡方より追々御筋へ入御覽候
分

一文政七甲申四月十二日夜より北風ニて大雨中川筋七八尺出水此日

豆州下田の大船相馬へ積送帰船ニて空舟の由右の大風

ニて松平大学頭様御領地常陸国鹿島郡平井邑へ着

尤一ノ浪打ニて碇ヲをろし空船ゆへ無事船方ともハ

伝馬ニて上陸無怪我依て下田へ飛脚被遣候由勿論

帆柱切捨右船方共松川御陣屋より出役の者へ物語ニ

今日沖ニて異国船四艘見懸候所右大嵐ニ帆をかけ

自由に乗候由誠ニ妙々ニて日本舟ハマねも成不申候

由松川御陣屋御郡奉行中村次兵衛子息同御代官

役中村政八瑞竜御代拜ニ四月廿八日ニ被参翌

廿九日帰候節又衛門方へ立寄物語ニ候



但三三年来銚子沖ニハ右イギリス船一二艘たゑ

す見ヘル文政七申春史館勤宇留野正次郎銚子へ罷越候

所右舟沖ニ見候由

史館勤

一文政七年申六月五日夕磯浜村より藤堅安異国船を見候図尤

七八里先帆ハ白ク見へ候遠目かねにてハ三増はい程大ク見候

且五日朝五ツ頃迄ハ浜近十七八丁の所迄大船参人かた

もわかり候由追々注進有之由にて相騒ニ付昼頃より

我等も参候同六日朝も浜近へ参候由此日も五ツ頃より

段々をきへ引候由大船四艘也帆ハ薄黒候由我等

参候節八ツ頃にて大舟へ西日をうけ候ゆへか白見候いそ

浜より南ノ方鹿島ノ方当三艘ハ一所ニかけをり尤其

間四五丁宛も可有之や一そうハ三そうより北ノ方へ

一里も離候様ニ見候其舟押通動ハナシきいそ浜

の方へのり候様ニ見候 如此二舟ヲをき申候

異国船図



如此も見候

異国船図



画師罷浜

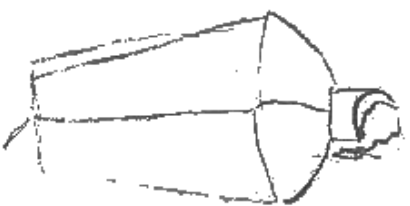
いえの□□

にて見候図

遠めかねにて

文政六年未六七月異国船より御領内諸口口師共
 實受又ハ手ぬくひ其外品々と致交易候諸器図

ビイドロ
 フラスコ 色アヲシ

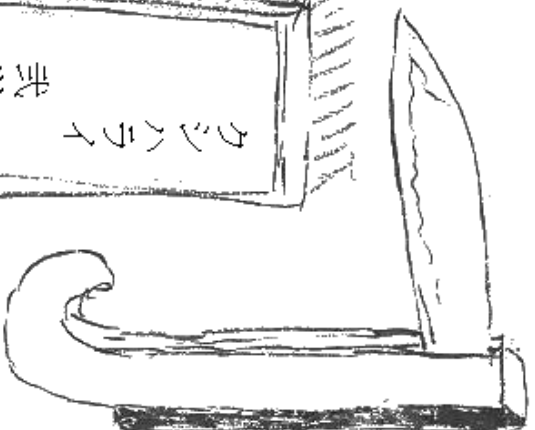


ソコヒクシ
 四角

四方式ツ
 ガツサイ 此方の
 風呂敷

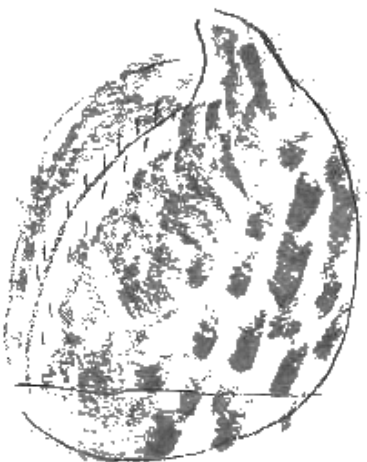


ホヲテヨヲ



クシハライ
 式ツ

ロヤスカイ式ツ



米



一文政七甲申年五月廿八日夕七ツ時の由異国船の伝馬舟二艘にて
十二人乗舟板二無之せいろう蔵杯の様ニくミ上候上を塗候由鉄砲
四挺並ニやす一二挺有之由当時ハ中山侯御領地大津村へ着候へ共
上陸不致候由然ル所郷土西丸勇次郎等又ハ庄屋組等罷出候て是
引上度致手法候へ共不承知の様子ニ有之付めし又ハ酒等
を出候へ共不用付鶏冬葱を出候へハ早速ニ用候て至極よろこひ
候由鶏ハ羽根ヲとりニツ割候てあふり塩気なしニ用候由着服
ハ縫くるミにて其内一人ハ猩々非の由大小弁ヲ致候て跡ヲとり不申候
由人ハ日本人同様ノ人にて礼ヲいたし候節ハ手ヲ拳後へ反候由廿九日
昼過下馬乗元小池左市ともふ一人様子見ニ被仰付大津まで
早馬にて参十町程引帰候節跡よりしきりニ呼懸候付少とまり
候内追々驅着候て只今北ノ方より異船参候付得ト見候へ共不見夫より
潜ヲ静ニ乗候てふり帰見候へハ帆ヲ懸此舟ニハ長刀様のもの有之由
能々見届候へハ此方へ注進遅成候付帰候由右の舟の早キ事誠ニ飛
様ニ見候由鉄砲ハ火縄ヲ不用石ヲ挟ミ直ニ討候由くすりハ日本と
甚違けいとうの種の様にて色悪甚強候由今日異船にて大筒を
一ツ打候所其音の烈敷事七里四方へ響候由左市つよき風の
男ニ候へ共肝ニ響且磯原辺板の上ニ指置候茶碗様のもの
動候由小児又ハ婦人など驚騒候由此大筒空へ向打候半
と申候日本人ヲをとし候為ニ打候ものならん大津近在ニ
三里の所ハ雉子啼候由左市帰候節助川村にて御家ニ番手
北河原甚五衛門殿などニ逢候節右大筒音聞候共申候此響甚
敷皆々驚候由又ハ二度目の大筒候も聞候日伝馬有之候
鉄砲拵方日本風と拵候形違候由筒ハ薄手の由且
中山侯の臣右の玉カにて頬をかすられ候由人物ハ惣髪にて

縮毛薄赤毛短候由鼻下ハそり候由目玉青候由盛高候由

セイ

うて先ハ日本人より少強又とり組候てハ日本人より弱候由
イギリス人ニ可有之候寄々認候大筒ハ同船呼集などの

狼煙か多ハ此方へ感を示の手段ならん塩硝甚敷

強候由人物鼻高少反中肉にて随分よろしく候由大

小弁の跡ハ更ニとり不申候ゆへ甚くさく候由眼勢強候

由米を不好鶏大根等を好めしハ其菜の心ニ用候ゆへ少

候由且大津にて翌日ハ台の古家へ十二人ヲ入手綱より役人

詰候て番ヲいたし村よりも二十人程番ニ付置候由然ル所ニ

三年來澳にて異船ニ度々出会種々の物ヲ賞候ゆへ

心安候半哉うて押す放をし等をいたし遊候由

殊の外早言葉にて短候由日本人言葉ヲさととり候事成

兼候よし

一 大津澳の舟三艘六月二日ニ南へ乗候由磯原大津をきニハ

三艘の外更ニ不見候所磯はま澳ニハ六月五日より四艘

見候又五艘ニも成候事有之候

一 五月晦日異船より大筒の節胆魂も消候由話候人々驚笠

をかむり候事も不成鉄砲へ薬を入候事もふるへ候て

不成七里四方間候由一説有り

右追々公儀へ御届被為在公儀御代官等御下候旨

六月七日九ツ半過ニ御代官古山善吉殿天文方又御普請

役格並通辞下本三町め宇兵衛並ニ清助本二町め

嘉兵衛方にて御賄等被下いさみ左ニ記

右の節上より御使ニ小従人伊藤忠三郎罷出候節宿へ案内

御町同心小野瀬伝助の所宿屋台所より引通不宣候由風聞

扱御代官等袴なしにて上より御使被請翌朝蔵役所

被下候節も右の通候由跡にて忠三郎殿へ右の通二候ハ、

御口上ヲ不延帰候て宜分としかられ候由古山ハ奥州

生にて一向ニ札ヲ不知男と見候大津より引帰ニ又々

小従人の御使可有之由若袴も不着候ハ、御口上ヲ不

被延と断可申との風聞御使ノ御人かわり可申と

の沙汰ニ有之候伊藤殿年若にて不行届人の由

一 六月八日朝五ツ前二本三町めヲ被立候て同九日ニ夕大津被着

其日ニ異人を被尋候由通辞イキルス言葉にて尋候由

翌十日 十二人を被帰候由併元舟不見候間見候迄

罷在度由申候由尤交易願ニも無之元船ニ当年ハ

病人多ニ付羊又ハくたものゝ類ヲ賞度上陸と申候

由依てねぎ大こんひわ梅りんこすもゝ米少々

被遣候由皆偽計を述候事と見候併公儀の御ならし

たまし候ても歸さへいたし候へハ宜と申心候由扱々

武の衰不及是非事也

一 日ニ二度一度ハ定式ニ古山殿より江戸へ御用杯登
候御勘定所より日ニ一度ツ、下候由

一 六月十日ニ大田原伝内殿御隠居へ御付属与力
田村又左衛門へ郷足輕三十人鉄砲ヲ為持大津へ御指
出

- 一 六月九日ニ大津より注進ニ異人伝馬舟ニて九艘参候処
 大津ノ岩の角へ縄ヲ懸可申となけ候所はつれ候付海へ
 飛入かけ候由十二人ヲ帰候様ニと申候由二三日も過
 可参としかたヲいたし候由夫ニて帰候由
- 一 史館方筆談役会沢等尋候節三十六ヶ月程海ニ
 居候由舟ハ三十五艘参候由尤北筋の漁師見候ニ十
 七八艘ハ見候由伝馬舟ハかゝりてこき候由
- 一 中山侯へ組付新番衆も三十人か手綱迄詰られ大津
 二ハ御家より御出はり四五百人の賄ゆへ御貯初も尽
 御領地相応の者へ三十四表ツ、白米ニて被申付
 御かり候由大津浜ハ作方ハすて置魚漁ニハ都て
- 北浜不罷出候様ニ御座候人馬ハ日々沢山ニ遣られ
 分て大津至極の痛ニて当年請上納御免無之候てハ
 難取続候由米ハ一人へ一升ニ味噌一合六勺何才ツ、
 渡候由中山侯去年中家中の変ニて七十両余御物
 入にて未其分も御仕移ニならざる内此度の異
 人大物入ニて御身上とり続かね候由
- 一 六月十日内藤殿より江戸へ急飛今日登候由又々をし懸一立
 登候由是も異人の伝馬舟着候由の沙汰
- 一 六月十五日朝風聞本多弾正少弼殿領泉ノ浜ノ近所へ
 十二人ノ異舟ニて着候由
- 一 御代官古山等十三日ニ登ニて下町へ十三日着候先触参候所

- 急ニ延候由ニテ古山吾吉との召連候手代三人の内二人
- 六月十二日ニ江戸へ登候由ニテ下町問屋場人馬ヲ繼ケ
- 是ハ異人共ヲ御家内より出強の御目附へ無断に付如何の次第ニ候やと御目付近藤儀大夫殿より古山へ以使被申越候其申
- わけ旁ニテ延引候由
- 一 六月九日夕少々雨古山足高通辞等異人を尋候節
袴羽織下駄ニテ尋候由武家の事不案内兵学
尚更更ニしらぬ人の候由
- 一 六月十五日ニ大船四艘直ニ見候由
- 一 六月十四日朝磯浜沖ヲ異船大二艘三里澳ニ
見北ノ方へのり候由右より役家下毛真岡塚田兵衛門
着候共押帰候由
- 倅久兵衛いそへ暫塩とらし参居候て一見物語ニ候
- 右ニそうの内一そうハ横ニ見へ一艘ハ豎ニ見候由
- 一 六月十日ニ十二人被帰候節粟稗米ひわ大根
冬葱等ヲ異人共へ被遣候由
- 一 いつミ領中通と申所へ六月十日過ニ異せん伝馬舟
着候共押帰候由
- 一 奥州相馬領へ異せん伝馬舟ニテ十五人上陸の
所追帰候由尤公儀へハ訴の急飛登候由
- 一 大津浜続長浜前へ平鴻より乗出候様ニ見候伝馬舟
四五艘の内四そうハ無何のり移跡より一そう岩へ

へ乗かけ候付異声ヲ懸候へ共浪音にて不聞付笠の様
成ものヲ持候て教候由大津前ニ石有之候所ヲ一々存候
て妙の由右の内一人無言にて日本人無相違罷在

候由

一 六月二十日四ツ半頃本三町め等へ古山等四人石神泊

ニて着於宿屋御賄御酒等被下上より御使小従人

中川要助也被出候尤問屋より古山の用達候袴ニても

不被着候ゆへ上より御口上難述旨申所袴にて古山

出候由此日府中泊ニ被参候尤夜ニ入府中着

候由

異国人上陸記事並圖

一 文政七年甲申五月廿八日常州多河郡大津浜番舶

二三艘俄ニ相見陸近來リ候付漁父共見付早速村役人へ

異船の趣申通候故手綱へ注進の由尤去夏中湊沖ニ見

候船と同様の由ニ候得共イキリス船計ニも無之ヲロシヤ交

候様子^ノ由風聞又候帆数多ク南北へ乗廻シ一朝の内数度

出沒仕候船ハ銅塗物の飾正美麗ニ相見候得共陸より委

細ニハ相訳リ兼候尤漁父杯ハ近キ所ニて見候趣ニ御座候誠

海上自由ニ乗廻シ候事神妙のよし 里人
話

一 大津浜北ノ方松山有之人家無之場所へ風と異国人伝馬舟

式艘付置乗組の人数六人宛十二人致上陸の所里人一向ニ存不

申候右村船頭杯追々見付人家へ連行村役人ハ勿論大勢集リ

上陸ノ次第相糺候へハ言語通シ不申異国人共懷中より銀

錢 大サ四文
錢位 出シ里人へ見せ又懷中へ仕舞候是ハ交易いたし度

故又件の通銀錢出候事と里人了簡いたし候武器ハ鉄砲四挺

形ハあまり違候事無之只口火の仕掛格別ニて赤キ小石ヲ

置鉄にて打付候へハ速に火出移候由もり一ツ持来候所是ハ此

地にて作り候品と違ひ大振の由

村役人
話

一 異国人捕置候場所は海手にて式間わりニ五間位の家海手へ

向一間の入口前ニ五尺幅二間の土間あり此所を異人一人位ツ、歩

行候由伝馬二艘此下へ引揚指置虎落二重にて右の方ニ番

所出来同心十人位警固ニいたし左の方ニ村役人船頭共大勢堅居

一体浜辺広キ場ニ候間三町四町位の間へ陣幕ヲ張高張

等夫々ニ立置大筒数挺備置候海辺ハ勿論山々迄も用意

嚴重ニ相見申候

一 異国人上陸の節村役人相談の上海辺の人家へ指置候所其砌

異人鉄砲持参候者有之ニ付甚気味悪候間鶏を持来

右鉄砲ト引替候様仕形をいたし候へハ鉄砲指出候幸ニ取替

如此いし四挺ともニ取上ケ御筋へ指出申候由

村役
人話

一 食事ハ至て小食にて上陸の節白米壺升遣シ候所十式人

にて七合迄ハ用ひ不申大根葱鶏肉等好候塩氣ハ嫌ひ候

由煙草ハ甚好烟管を出候同類の者へ火を乞候時手にて

札をいたし候様子相見申候又烟草生のまゝ含ミ頬へ貯

置たはこの氣薄く成候へハ吐出申候所持いたし候たはこハ

色黒ク相見申候由

里人
話

一 異人容躰不同ニ候へとも眉毛口鼻杯ハ同様ニ見へ候乍去色

黒白駁も有之其顔色駁なる一人ハ水術達者ニて至て山

賤の者ニ御座候由又其内二人ハ黒キ服にて仕立ハ同様黒キ

襟を付頭巾等格別見へ申候由髪ハ赤黒あり鼻高ク

口少く目黄色眸子白シ都て瘦形にて入目也頭巾

皮にて色々の品也衣服ハ何れも羅紗の類なるよし

一 異人座す事不自由故大半箕踞の方勝手の様相見候

足ハ指ニ長し徐行ニて身をゆり一間も先を目当し申候

人を見る事稀也跡へ戻る時ハ必天を仰き又地を見て

歩行する事数度ニ及ぶ何れも如斯

大津村の老人曰歩行の時天地を見て恭敬の容あり

是ハ天を禱我命の無事を願ふならん

又ある人曰ものを食シ候後必いく度も歩行する事

身の養生ならん

一 荒川村過候時人家へ休息いたし居候へハ大銃の声震動

大二人々驚き役人等浜手へ罷出候所雨中故異船と見へ兼
 其日ハ度々砲声の音繁く里人言雲霧中相図ニ可有
 之尚又転馬舟集メ候節も発候様存候

一 去月晦日異船てんま船四艘大津浜へ捕置候異人を目

当ニ乗来候尤二艘ハ沖ニ控居二艘ハ岸迄来る村役人罷出

押へ候故上陸不致候其節異人一人舷ニ立



未分
 明を以大音ニ

呼候付虎落の中へ出迎候所隔候事故返答通し兼候

様子ニ御座候此時村役人罷出陸ニ罷在候異人へ厚紙指出

書翰為認村役人竹へ挟ミ船中へ遣し候由仍岸迄乗

来候伝馬船沖ニ居候船へ書翰為見候て又候乗来り

村役人へ対枕肱する仕形をいたし紙包
これハ 豚の
 葉也 乾肉 類

を上陸の異人へ贈候由是ハ陸の異人ニ病氣の者有之候付

遣シ候由 右転馬船帰候節謝礼に銀錢一ツ出シ村役人へ

贈るやうすニ付村役人取請不申候由
里人
 話

何れにも書翰取替候取次の役人不幸心得成へし

一 伝馬船来候節押置候異人一人船へ向手を開キ三度

掌をかへし候由是ハ一指を一日ニとり一掌を五日ニとり

三度にて十五日の事なるへし舟にて右仕形見候て帰り

候由 或人の云 病人本腹の日数をはかるならん

一 異人押へ置家へ里中の婦人小児を抱て見物ニ来る

を見て異人小児を愛シ涙を流し候よし異人国々

の父母妻子等を思ひかくあらんことと存候

里人
話

一 大津村に休息いたし候節老翁来りて云此度異国

船の儀ニ付村々ハ勿論一国の衰微に相成誠に気の毒

に存候 初発上陸の砌包丁の類持候て上陸致候て如此

切れ候有之仕形仕候ハ、必移り候半只今に至諸人の難

渋困り候事ニ御座候よし

異国人歩行の図

